

# 日本バンディ連盟のご紹介

## 日本代表チームへの協賛のお願い

一般社団法人日本バンディ連盟  
代表理事 高村博正

広報担当 井坂 博一

〒558-0053 大阪市住吉区帝塚山中2-5-21-202 高村博正気付

E-mail : [info@bandy.or.jp](mailto:info@bandy.or.jp)

FAX : 06-6674-5015

# 1. (一般社団法人) 日本バンディ連盟①

(JBF : JAPAN BANDY FEDERATION)



## ◆ JBFのミッション

JBFは、日本におけるバンディ界を総括し代表する組織として、バンディの普及振興を図り、日本国民の心身の健全な発展・成長に寄与することを使命とする。

## ◆ JBFのビジョン

バンディの普及・振興に努め、国民の健康と幸福を育みリードするスポーツ団体となる。バンディ選手の強化に努め、日本代表チームの活躍を通して国民に勇気と希望と感動を与える。フェアプレーの精神を発揮し、国内外の人々と友好を深めて国際親善に貢献し、世界平和の一翼を担う存在となる。

# 1. (一般社団法人) 日本バンディ連盟②

(JBF : JAPAN BANDY FEDERATION)



## ◆ JBFのメッセージ

私たちは、2011年4月にバンディという氷上スポーツを初めて日本に紹介し、普及を始めました。

3月には東日本大震災・原発事故という、いままでに経験したことのない悲劇と惨事を経験しました。自然災害の脅威と、制御が困難なエネルギー源をめぐる事故は、自然を科学の力で押さえ込めるはずだという私たちの見通しの甘さを痛感させられる出来事でした。自然から離れていく流れと科学万能主義という今までの生き方を再検討するチャンスです。

かつて私たちは自然とうまく折り合いをつけてスポーツを楽しんでいました。

空き地での三角ベース、原っぱでのボール蹴り、凍った湖での長靴ホッケー。ところが、いつのまにかこれらの楽しい“自然の中でのスポーツ”も、人工的でより便利な近代的施設と環境をつくり出すことが「進歩」と思うようになりました。その中で失っていったスポーツが本来もっている大切な要素を、バンディは思い出させてくれます。バンディは未だに自然と人間の交流の楽しさと近代的なスポーツの魅力とを兼ね備えています。

私たちが忘れかけていた多くのことをバンディというスポーツは教えてくれます。未来を背負う子供たちに、バンディの楽しさを情熱と希望をもって伝えていかなければなりません。忘れかけていた昔の良き時代の原体験～野山、広場、凍った湖を思い切り駆け回る喜び～をまた享受できる日本にしたいと思います。バンディを通して、これからの日本の希望を背負って、一步ずつ進みたいと思います。

## 2. バンディ (Bandy) の起源



- ◆ 昔、イギリスでバンドー (bando) と呼ばれる競技が行われていました。この bando という言葉が初めて辞書に現れたのは1770年から1794年の間とされます。スコットランドを起源とする競技から派生したと考えられ、後にアイスホッケーの起源の一つとなったという説もあります。
- ◆ その後バンディは19世紀のイギリスで次第に近代化され、1891年に初のルールが定められました。
- ◆ 一方、ロシアにおいても18世紀初め頃からバンディが始まり、19世紀後半にはロシア全土に普及しました。
- ◆ 現在は北ヨーロッパを中心に盛んに行われており、スウェーデンなど北ヨーロッパ諸国ではテレビ中継されるほど人気のあるスポーツです。

## 3. バンディ (Bandy) とは?①



- ◆ サッカー競技場ほどのスケートリンク（長さ90-110 m×幅45-65 m）上で、スティックでボールを打撃し、ゴールに入れるのを競う氷上球技。
- ◆ ルールはサッカーに類似しています。
- ◆ プレーヤーは、各チーム（ゴールキーパーを含む）11人です。
- ◆ 交替要員4名とサブキーパー1名がベンチ入りします。
- ◆ 監督等スタッフは4名までベンチ入りが認められます。
- ◆ 試合は30分ハーフ×2回、または45分ハーフ×2回、で行います。
- ◆ ボディーチェックは、プレーヤーがボールを持っているときのみ、肩と肩のコンタクトが認められています。
- ◆ サッカー競技場と同じぐらいの大きさの氷上で行われる「バンディ」と、アイスホッケーのリンクで行われる「リンク・バンディ」とがありますが、ルールはほとんど同じです。JBFがいう「バンディ」はこの両方のスタイルを意味します。

### 3. バンディ (Bandy) とは?②



- ◆ スウェーデンにある国際バンディ連盟 (FIB) に登録されている競技人口は、約2万人。スウェーデンの人口が約925万人ですから、総人口の約0.2%もの割合となります。FIB加盟国の登録選手は約12万5千人にもおよびます。登録外の選手を含めると、総競技人口は20万人を超えます。
- ◆ 比較のために我が国の柔道人口を例に挙げますと、柔道の登録競技人口は20万人で、総人口 (約1億2805万人) の約0.16%です。バンディの場合は柔道の数字を上回り、人気の高さがうかがえます。
- ◆ ヨーロッパやアメリカではプロリーグも存在し、北ヨーロッパやロシアでは少年期にアイスホッケーと掛け持ちする選手が多いのも特徴です。



## 4.国際バンディ連盟加盟国



国際バンディ連盟 (FIB : Federation of International Bandy)  
<http://www.worldbandy.com/>

◆ 現在、国際バンディ連盟 (FIB) には、次の28カ国が加盟しています。

Argentina, Armenia, Australia, Belarus, Canada,  
China, England, Estonia, Finland, Hungary,  
India, Ireland, Italy, Japan, Kazakhstan,  
Kyrgyzstan, Latvia, Lithuania, Mongolia,  
Netherlands, Norway, Poland, Russia, Serbia,  
Sweden, Switzerland, Ukraine, U.S.A.

## 5.世界選手権（WCS）①



- ◆ バンディは、1952年のオスロオリンピックでは公開競技でした。
- ◆ 現在、男子は毎年世界選手権大会が開催されています。
- ◆ 2004年にIOC（国際オリンピック委員会）に加盟承認され、冬季オリンピックでの正式競技採用を目指しています。
- ◆ 2014年の世界選手権大会は、ロシアの都市イルクーツクで、2014年1月26日から2月2日の期間に開催されます。



## 5.世界選手権 (WCS) ②



◆世界選手権は、A・Bグループで開催 (WCS2014)。

◆Aグループ：

Sweden, Russia, Kazakhstan, Finland,  
Norway, Belarus, USA, Canada,

◆Bグループ：

Hungary, Latvia, Netherlands, Estonia,  
Japan, Ukraine, Somalia, Germany

## 5.世界選手権（WCS）③



- ◆ スウェーデンでの国内リーグ戦は、14試合がテレビ放映されます。決勝戦は、約25,000人も観客が会場を訪れるほどの人気があります。また、ロシアでも非常に人気があり、スウェーデンと同じようにテレビ放映されます。さらにテレビのみならず、新聞、雑誌、ラジオなどでも報道されています。
- ◆ 世界選手権も同様にテレビ放映がされており、特に決勝戦は、ヨーロッパ47ヶ国、アジア14ヶ国で観ることができる『Eurosport2』チャンネルで放映されています。このような大々的な報道と放送は、バンディの世界的な普及に大きく貢献しています。

## 6. 今後の日本バンディの目標



- ◆ これからは、この成果に慢心することなく、さらに日本におけるバンディの普及活動に注力しながら、世界大会への出場を通じて競技力の向上を図り、世界における日本バンディの存在感を高めてまいります。また、FIBとの関係を強化し連携しながら、世界におけるバンディ競技の普及と冬季オリンピックへのバンディ競技の採用を目指してまいります。
- ◆ 今後は、2017年日本での開催が決定している冬季アジア大会でのバンディ競技開催、さらにバンディ競技の冬季オリンピック正式種目採用を目指して、FIBとともに活動を進めて参ります。

## 7.日本代表チームへの 協賛のお願い（1/2）



- ◆ 日本代表チームとしては、2012年の国際舞台初出場につづき、2014年に3年連続で世界選手権出場するなど、更なる国際舞台で活躍を目指していますが、皆様の種々の費用やサポートが必要となります。
- ◆ 現在、下記世界選手権（WCS2014）に出場する日本代表チームへの協賛スポンサー、サポーターを募集しております。

開催期間：2014年1月26日～2月2日

開催場所：ロシア・イルクーツク

## 7.日本代表チームへの 協賛のお願い (2/2)

### 【オフィシャルスポンサー】

- 金額：500,000円～
- 内容：ユニホーム(濃淡2種)・ヘルメット  
へのロゴ表記  
日本バンディ連盟ホームページに  
ロゴ表記

### 【一般スポンサー】

- 金額：50,000円～
- 内容：ヘルメットへのロゴ表記  
日本バンディ連盟ホームページに  
ロゴ表記

※その他、オフィシャルサプライヤー（現物  
ご協賛）も募集しております。



## 8.お問い合わせ先

一般社団法人日本バンディ連盟  
代表理事 高村博正

広報担当 井坂 博一  
E-mail : [info@bandy.or.jp](mailto:info@bandy.or.jp)

〒558-0053 大阪市住吉区帝塚山中2-5-21-202 高村博正気付  
FAX : 06-6674-5015

